

農業の新しい技術

No. 682(平成27年5月)
分類コード 04-08
熊本県農林水産部

チャトゲコナジラミとクワシロカイガラムシ 第1世代との同時防除効果は高い

農業研究センター 茶業研究所
担当者：山内 崇

研究のねらい

近年、県内の茶園でチャトゲコナジラミの侵入地域が拡大している。本種の対策にともなうコスト増加を防止するうえで、他の害虫との同時防除が有効である。この候補となる害虫に、気温から防除時期が予測でき、かつ薬剤の散布位置がチャトゲコナジラミと近いクワシロカイガラムシが挙げられる。

そこで、クワシロカイガラムシの防除時期（ふ化最盛期）の薬剤散布による、チャトゲコナジラミへの防除効果を明らかにする。

研究の成果

1. チャトゲコナジラミは、クワシロカイガラムシ第1世代ふ化最盛期の薬剤散布により、晩秋期まで個体数を散布前よりも低い水準に抑制できる。（図1）
2. クワシロカイガラムシ第2世代ふ化最盛期の薬剤散布は、チャトゲコナジラミに効果がみられるものの、その程度は第1世代の方が優れる。（図1）
3. 薬剤防除の標的となるチャトゲコナジラミ卵および若齢幼虫の構成比は、クワシロカイガラムシの各世代の防除適期において、第1世代が最も高い。（図2）

以上のことから、チャトゲコナジラミはクワシロカイガラムシ第1世代と同時に防除することができる。

普及上の留意点

1. 県央部の現地茶園における成果であり、県内の主要な茶産地（年平均気温15～17℃の地域）に適用できる。
2. クワシロカイガラムシのふ化最盛期は、農業の新しい技術No.588（平成20年7月）により予測できる。
3. 本種が多発した茶園で防除を行う場合は、中切り更新等の寄生部除去と組み合わせる。
4. クワシロカイガラムシとチャトゲコナジラミに適用があり、さらにチャトゲコナジラミに殺卵効果が確認されている薬剤は、2014年末時点でフェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤（商品名：アプロードエースフロアブル、摘採前使用日数：14日）のみである。
5. 薬剤の使用にあたっては、農薬安全使用基準を確認・遵守する。

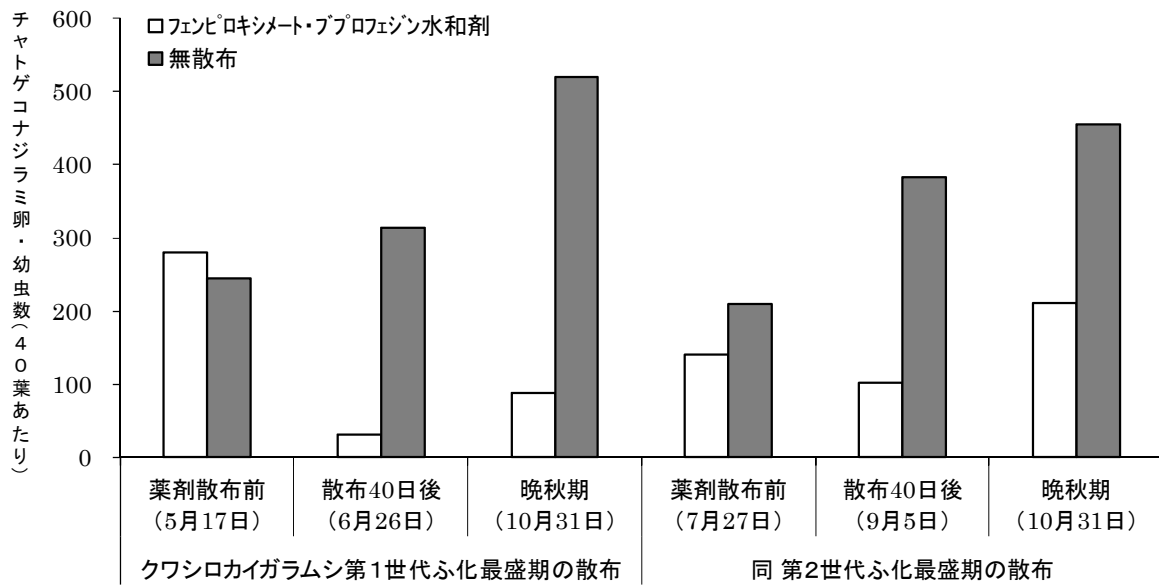


図1. 薬剤散布時期の違いがチャトゲコナジラミ卵・幼虫の密度に及ぼす効果 (2014年)

注1) フェンプロキシメート・ブプロフェジン水和剤 (商品名: アプロードエースフロアブル、1,000倍、1,000倍/10a) を乗用型防除機で散布した。

注2) 薬剤散布前のチャトゲコナジラミの発生は、第1世代、第2世代とも中程度であった。

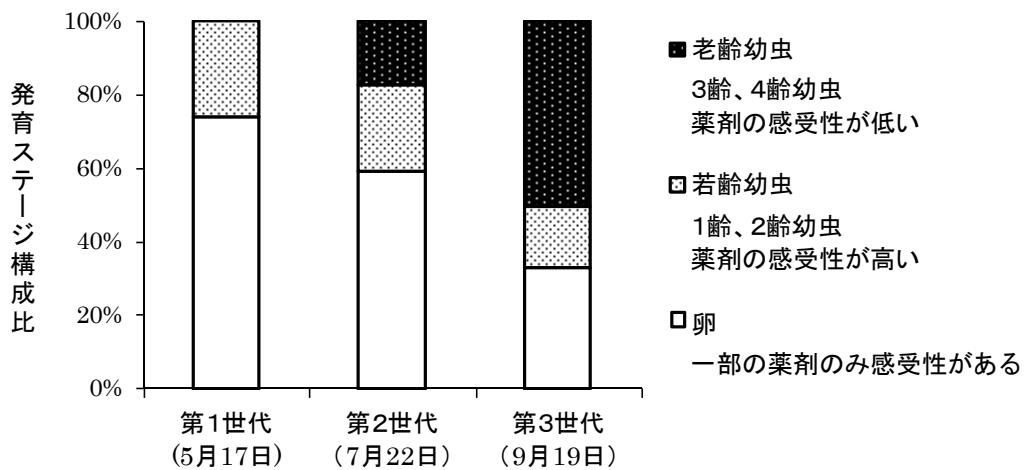


図2. 世代ごとのクワシロカイガラムシの防除適期 (ふ化最盛期) におけるチャトゲコナジラミの发育ステージの構成比 (2014年)

注1) クワシロカイガラムシのふ化最盛期は、アメダス気温データを用いた予測式から求めた。